

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2015年11月

ISO/TC 61/SC 4 (燃焼挙動)分野の最近の動向

ISO/TC61/SC4 はプラスチックの燃焼挙動に係るプラスチック共通の試験方法に関する規格を担当しており、現在、4つの追補を含め 27 規格が発行され、10 件の開発中案件(内 3 案件が日本提案)が活動しており、幹事国は英国(BSI)、幹事は Mr. Petar Luzajic で、議長は Mr. Stephan J Grayson(英)が務めている。本年よりテクニカルレポート TR 20118 (Guidance on fire characteristics and fire performance of PVC materials used in building applications)の開発のために新たに WG11 が発足しコンベンナーに Dr. Roland Dewitt が就任したため、現在、5つの作業部会(WG)で、日本を含む 22ヶ国が P-メンバーとして活動に参加している。また、O-メンバーとして 12ヶ国が参加している。

プラスチックは電気製品、建材、家庭用品から船舶・車両などの素材として広く用いられていることから、ISO/TC92(火災安全)、IEC/TC89 (電気製品の耐火性)、CEN/TC127 (建築材料の防火)、CEN/TC257(鉄道車両)、IMO(国際海事機関)、FAO(国連食糧農業機構)など関係する分野との連携を深めており、規格の統合化も進んでいる。

本稿では ISO/TC61/SC4 の最近動向及び国内ミラー委員会 [当連盟の ISO/TC61/SC4 委員会：吉田主査 (日本舶用品検定協会)、国内委員会と呼称] の関連する活動状況の概要を記す。

1. WG 2 (燃焼生成物：煙及び腐食性)

コンベンナーは、Mr. Eric Guillaume (仏)で、「発煙性試験(ISO 5659-シリーズ)」、「燃焼生成物による腐食性試験(ISO 11907-シリーズ)」等の規格を担当しており、現在 6つの規格が発行されている。発煙性試験の ISO 5659-2 の改訂に伴い ISO 5659-1 は廃止された。また、国内委員会では対応する JIS K 7242-2 の改正が完了し、本書発行時には、公示されていると思われる。

2. WG 8 (着火性と火炎の拡大)

コンベンナーは、Mr. Marcelo Hirschler (英)で、「着火源の分類規定(ISO 10093)」、「着火温度試験(ISO 871)」、「垂直、水平燃焼特性試験(ISO 9772,9773)」、「酸素指数燃焼性試験(ISO 4589-1~-3)」、「燃焼の広がり試験(ISO 12992)」、「燃焼発熱量に関する試験法(ISO 13927, ISO 21367)」、「試験炎による燃焼試験(IEC 60695-11-10,-20)」等の規格を担当し、現在 12 の規格と 4 つの追補が発行されている。

また、片野委員が担当する酸素指数 3 規格は経済産業省の国際標準化事業として改正作業を行っており、現在、CD 投票が終了し、次回国際会議では DIS 段階に進むことを目指す。

3. WG 9 (複合材及び中間製品)

コンベンナーは、吉田主査で、担当の発行規格は、「複合材の燃焼挙動の一般指針(ISO 25762)」、「中間規模燃焼試験の指針(ISO 15791-1)」及び昨年発行した「繊維強化高分子複合材料の中間スケール

耐火試験(ISO 30021)」の3つの規格を担当し、開発中案件として、ISO 15791-2のTSとしての新規制定(仏担当)がある。

4. WG 10 (ライター)

コンベナーは、Mr. Steve Burkhart (米)で、「ライター」関係(ISO 9994, ISO 22702)の2規格を担当しており、SC4への移行に伴い、活動を復活させ、両規格とも改正が行われており、近くDIS投票が実施される予定である。

5. WG 11 (TR20118の開発)

今年の国際会議においてキックオフミーティングが開催され、本格的に活動を開始する予定である。

以上